

相談室便り

(保護者の方もお読みください)

★★★ 第21号 ★★★

2017年3月発行



◆◇◆生徒の皆さんへ◆◇◆ 気がつけば3月。この学年を締めくくる時になりました。今回の相談室便りでは、3人の先生方が「リーダー研修会」について、「品格教育」について、そしてこの「1年間のなかで」と題して記事を書いてくださっています。ぜひ自分自身のこの1年を振り返りながら読んでください。

リーダー研修会 報告 (平成29年2月5日実施)

本校の教育目標に「たくましい人間力の育成」とある。人間力とはどのような力なのだろう。たくましさとは何をもってたくましいというのか。答えはきっと無数にあり、そのどれもが正しい。いわば終わりなき旅である。人間力を高めていくというのは、自分の人生をいかに歩むのかを考えることなのかもしれない。

本校ではリーダー研修会を毎年開催している。高校から始まり、中等教育学校へと引き継がれてきた伝統の一つである。本年度は初めての学校開催となり、次年度の岡山大安寺を担うリーダーの育成を目標に掲げ、50名を超える1～5年生の生徒と教師たちが参加した。外部から大安寺高校OBの坪井先生にご参加、ご指導いただき、実り多き研修となった。

まずは趣旨説明。続いてアイスブレイク「あなたは」「桃太郎さん」(参加者に尋ねてみてください)を行った。開会当初はやや表情がかたく、緊張がみられた生徒もこの活動(仕掛け)でいつもの笑顔が戻ってきた。

午前の部は3分科会(大安仁リーダー養成コース、ヒューマンコミュニケーションリーダー養成コース、ピアサポートリーダー養成コース)に分かれ、各々が目指す理想のリーダー像を具体的に思い描き、近づいていくための多くのヒントを指導者の先生方からいただいた。4～6人程度の小グループでの活動を中心に進行したが、今日初めて顔を合わせたとは思えないほどに活発にやり取りをしている生徒たちの順応性や協調性、そして何よりも意欲の高さを実感し、頼もしさを覚えた。昼食時に談笑しながら弁当をほおぼる姿もほほえましいものであった。

午後の部の活動はさらに熱のこもったものとなった。活発に意見を交わし、書き物をし、他者の意見に傾聴し、願いや思いを共有した。新たな知見を得たり、同じような悩みや迷いを抱えている人が身近にいることを知ったりと、多くの気づきを得ることができた。

閉会行事。一日ともに研修を進めていった同グループのメンバーに感謝の気持ちを込めて

手紙を書いた。このプレゼントシートの交換は、本校のリーダー研修会の定番メニューであるが、クライマックスへつながる大切な時間であろう。恥ずかしそうに手紙を渡す姿や、自分のために書いてくれた手紙をじっと読みふける姿には、胸を熱くするものがあった。指導者の先生がおっしゃったこと（常日頃からおっしゃっていること）、「種をまき、芽が出て、いつか大きな花を咲かせてほしい。新たな種をつけ、それをみんなに広めてほしい」は今回も参加者の心に深く刻まれたことであろう。本校で学ぶこと、本校に集った仲間たちと学ぶことの楽しさと大切さに気付けた、本年度のリーダー研修会であった。

***参加者の感想文より（一部抜粋）**

・今回のリーダー研修会で印象に残ったのは「いつも感謝の心を忘れずに」ということだった。どちらも一見、何も珍しくない内容に見えるが、それがとても大切なことだと思った。リーダー研修会も、自分だけではなく一緒に活動した友だち、準備をしてくださった先生から、この場に参加させてくれた親など、様々な人がいて成り立っていた。それぞれに感謝し、様々な人の思いを無駄にしないよう、自分のすべきことを理解し、実行していこうと思った。（前期課程生徒）

・これから部活動のリーダーとして部員を引っ張っていくために、まず自分から積極的にコミュニケーションをとることで部をまとめていきたい。また、部員全員があたりまえのようにあいさつができる部にしてきたい。そのためには自分がしっかりあいさつをする必要がある。そうすることで、部員全員に広まっていくと思う。（後期課程生徒）



（写真左）コミュニケーションリーダー養成コースのグループワークの様子。



（写真上）大安仁リーダー養成コースの全体シェアリングの様子。



（写真左）ピア・サポートリーダー養成コースの感情理解・話の聴き方を示したホワイトボード。《自己理解と他者受容》

（鳥越威志 とりごえたけし 教育相談係・生徒会係 2年A組主担任 社会科）

1年間のなかで

友重 望

皆さんにとってこの1年はどんな1年でどんな成長をしましたか？

私は大安寺中等教育学校にきてこの1年間、たくさんの経験ができて、いろいろな思いを抱くことができました。一番に思うことが、「もっと成長したい」です。

私はこの学校に赴任する前1年間地元に戻り、臨時保健師をしていました。そこでは妊婦さんへの母子手帳交付、寝たきり予防運動教室や乳幼児検診の補助などを行っており、特に乳幼児検診では4～5ヶ月、11ヶ月、1歳半、2歳、3歳半の子どもたちの身体計測と発育検査から成長の様子を確認していました。タイミングのあう子どもは半年後の健診で会うことが出来ました。

そんな中で、1歳半健診で泣いて逃げて、測定も何も出来ない子どもがいました。脱ぎたくない服を脱いで、さらに冷たい手で私が計測をしようとしたのでとても嫌がられ、お母さんに泣きついて帰って行きました。その子が半年後、2歳健診でお母さんと一緒に来た時はまるで別人でした。不思議そうにはしていましたが、測定も無事に済み、その後の検査もご機嫌で終わりました。お母さんからは「あの時はお世話になりました。」と感謝をされました。たった半年で体も心も大きく変化したその子を見れば、こちらの方が心が温かくなり感謝したい気持ちになりました。この大きな成長には本人の発達の伸びはもちろんですが、家族や周りに人とも関わりも多くの影響を与えたのだと、お母さんとの様子を見て感じました。

体の成長はある程度の段階で止まります。しかし、心や知識はいくつになっても伸ばすことが出来ます。ある時、生徒がつらい経験があったことを話してくれました。その生徒はつらい経験をバネに大きく成長し、誰かを妬むのではなく「自分は幸せになる」ための努力をし達成をしていました。その様子を見て感動し「見習いたいな」と思いました。

環境や関わる人が増えるだけ、自分とは違った考え方や感じ方をする人が多くいることを知ります。【われ以外みなわが師】だと思い、自分にはない「良いもの」があれば参考にしてどんどん取り入れていってください。きっと大安寺生のみなさんならよいものを取り入れ豊かで健康な「こころ」の成長をしていけると思っています。

(ともしげのそみ 養護教諭 教育相談係)

品格教育

原 亜衣

4月「あいさつ」、7月「良心」、10月「はばたく」、今月のテーマは何か皆さん知っていますか？3月は「感謝」です。大安寺では「心の教育」の一環として様々なことに取り組んでいます。その一つが品格教育です。品格教育とは、みんながよい行為の習慣をつくるように取り組む教育のことです。大安寺では毎月生活の中で心がけたいテーマを学校全体にポスターとして掲示し、よりよい習慣作りを心掛けようとしています。今年度より前期課程では「大安仁を行動で示す」と題して、毎月のテーマに沿って一人一人が自身の生活や行動を見直し1ヶ月心掛けたい行動目標を決めています。

1月は「やりぬく心」というテーマでした。「忘れ物をゼロ」をやりぬく！！と目標を決めた生徒がいました。その生徒の1ヶ月後の振り返りを見てみると、「前日に用意して当日の朝に確認をしたら、忘れ物がゼロにできた」とよい習慣が意識できたようでした。もちろん「やりぬけなかった…」「はじめはできたけど、続けられなかった」などの振り返りをしてきている生徒もいました。習慣というのはすぐには身につかないものです。自分自身でよく考え、自ら行動すること、自ら行動したことを、自分自身で振り返ること、これを続けることでよい習慣が確立していきます。ぜひこの品格教育を通して良い習慣づくりをマスターしていきましょう。

1年生ではそれに加え、自分達のポスターでより意識付けをしようということ、みんなで毎月のポスターを作っています。ポスターには見た人が月のテーマを意識できるような一人一人の自分らしいコメントを入れていき、とてもよいポスターが次々と完成しています。来年は自分達の作ったポスターを見ながら、よりよい行動を心がけ、よい習慣を身につけていけそうです。

教育相談室長の大西先生も言われていましたが、よい習慣はその人の品格（気品・品性）となってその人を輝かせます。輝く品格を身につけた人には輝かしい運命が開けるのです。ぜひみなさんも素敵な品格を身につけていきましょう。

※実際に作ったポスターを紹介します。

